

伊達市教育委員会

1 調査結果の概要

(1) 全体的な傾向

市内の小・中学校においては、全体として以下のような特徴がみられた。

○平成23年度全国学力・学習状況調査問題を活用した北海道における学力等調査は、札幌市を除く178市町村、及び特別支援学校小学部、特別支援学校中学部・中等教育学校が実施をした。

実施した学校数と児童生徒数については、次のとおりである。

	学校数（校）	児童生徒数（人）
小学校	965	29,378
中学校	557	29,855
合計	1,522	59,233

○伊達市は、星の丘小・中学校を除く、小学校9校300人、中学校4校301人が基準日である平成23年9月27日に実施をした。

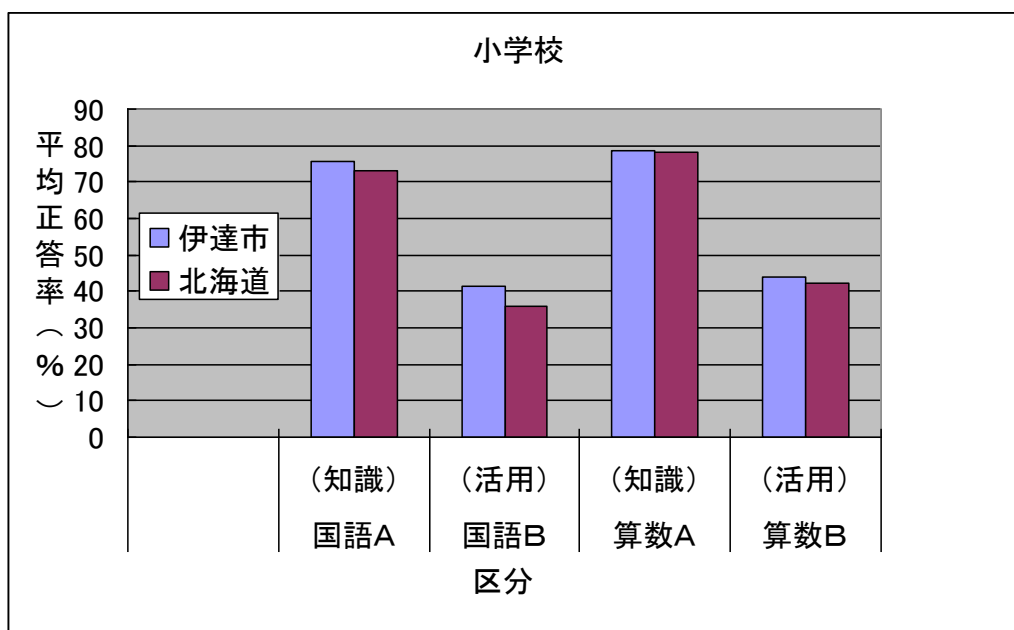
（※但し、達南中学校は予備日の9月29日に実施）

○平均正答率の結果については、「平成23年度全国学力・学習状況調査問題を活用した北海道における平均正答率グラフ」のとおりである。

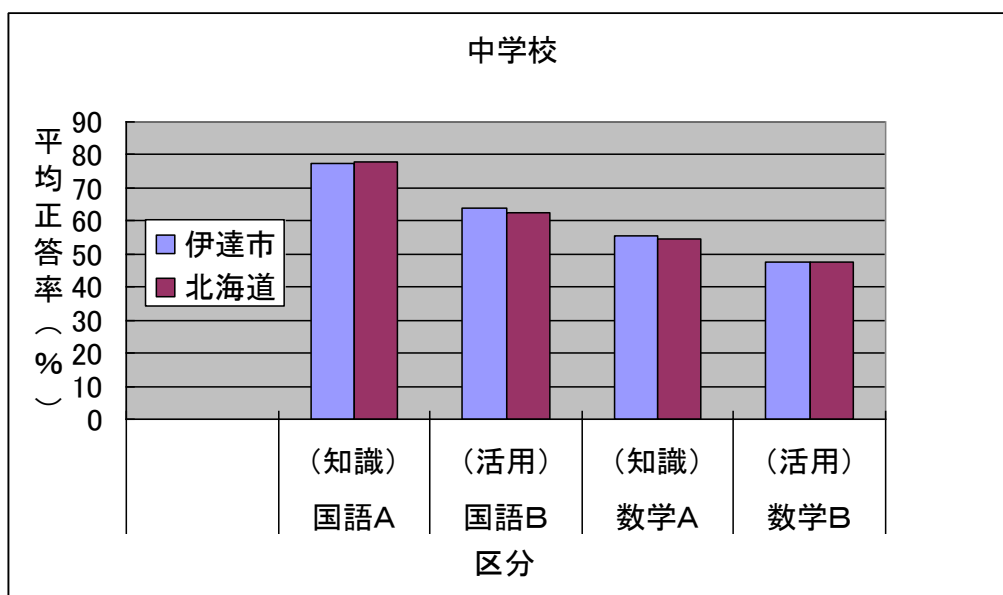
※平均正答率＝平均正答数／設問数

○《A問題：知識》・《B問題：活用》の区分において、伊達市の中学校と小学校における平均正答率の各北海道比を比較すると、《A問題：知識》・《B問題：活用》の区分とも小学校より中学校の比較比が低くなっている。

平成 23 年度全国学力・学習状況調査問題を活用した北海道における平均正答率グラフ



小学校	国語A	国語B	算数A	算数B
	(知識)	(活用)	(知識)	(活用)
伊達市	75.5	41.4	78.5	44.1
北海道	73.1	36.1	78.0	42.2



中学校	国語A	国語B	数学A	数学B
	(知識)	(活用)	(知識)	(活用)
伊達市	77.2	63.7	55.6	47.5
北海道	78.0	62.4	54.7	47.4

(2) 教科ごとの概要  
(小学校)

市内の小学校においては、以下のような特徴がみられた。

◆《国語・知識》

○設問数16に対する伊達市の平均正答数は、北海道の平均正答数より上回っている。

○領域での傾向

「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「言語事項」の全領域において、北海道平均正答率より上回っている。

◆《国語・活用》

○設問数10に対する伊達市の平均正答数は、北海道の平均正答数より上回っている。

○領域での傾向

《国語・知識》と同様、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「言語事項」の全てにおいて、北海道平均正答率より上回っている。

◆《算数・知識》

○設問数19に対する伊達市の平均正答数は、北海道の平均正答数とほぼ同様である。

○領域での傾向

「数と計算」においては、北海道平均正答率より上回っているものの、「量と測定」「図形」、「数量関係」において、北海道平均正答率より若干下回っている。

◆《算数・活用》

○設問数13に対する伊達市の平均正答数は、北海道の平均正答数より上回っている

○領域での傾向

「数と計算」においては、北海道平均正答率より若干下回っているものの、「量と測定」「図形」、「数量関係」において、北海道平均正答率より上回っている。

(中学校)

市内の中学校においては、以下のような特徴がみられた。

◆《国語・知識》

○設問数32に対する伊達市の平均正答数は、北海道の平均正答率より若干下回っている

○領域での傾向

「読むこと」においては、北海道平均正答率より上回っているものの、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「言語事項」は、北海道平均正答率より下回っている。

◆《国語・活用》

○設問数9に対する伊達市の平均正答数は、北海道の平均正答数より上回っている。

○領域での傾向

「書くこと」、「読むこと」、「言語事項」の全てにおいて、北海道平均正答率より上回っている。

◆《数学・知識》

○設問数36に対する伊達市の平均正答数は、北海道の平均正答数とほぼ同様である。

○領域での傾向

「数と式」、「数量関係」、「図形」の全てにおいて、北海道平均正答率より上回っている。

◆《数学・活用》

○設問数15に対する伊達市の平均正答数は、北海道の平均正答数と同様である。

○領域での傾向

「数と式」において、北海道平均正答率より若干上回っており「数量関係」「図形」の全てに関係」においては、北海道とほぼ同様にである。

## 2 調査結果の分析 (小学校)

調査結果の概要を踏まえて、現段階では小学校において、以下のような取り組みが求められる。

◆《全体として》

○各教科の設問や領域毎の下位の平均正答率や無解答の問題に着目し、各学校の現状を踏まえ、子どもの発達の段階や指導内容の系統性も踏まえた上で、当該学年の指導はもとより、基礎となる下学年の指導や学習が積み重なる上学年での指導を意図的・計画的に行うことが必要である。

○各学校においては、各問題を分析・検証の上、その結果から読み取れる課題に焦点を当て、学習指導の改善や充実につながるよう指導の在り方を工夫する必要がある。

◆《国語・知識》

○知識に関する問題は、これまでと同様に、漢字を正しく読んだり書いたりする問題のほか、新たに新聞記事を効果的に読み、必要な情報を得るなどの9問16設問が学習指導要領の目標及び内容に基づき出題された。

○指導にあたっては、表現の仕方によって効果を高めたり工夫したりすることや、どのような立場で書くのかなど主体と対象との関係を明確にすることなどを確実に身に付けさせる指導が必要である。

◆ 《国語・活用》

○活用に関する問題は、これまでと同様に自分の考えをまとめたり、効果的に書いたりする記述などの3問10設問が学習指導要領の目標及び内容に基づき出題された。

○指導に当たっては、日常の授業で、書いてまとめる活動を適切に位置づけたり、「○ ○」程度で、「文章中の言葉を使って」など、条件を示して書く活動を位置づけたりして、条件に応じて書く能力を高める学習を進める必要がある。

◆ 《算数・知識》

○知識に関する問題は、これまでと同様に、整数、小数の計算をする問題など9問19設問が学習指導要領の目標及び内容に基づき出題された。

○指導に当たっては、筋道を立てて考える機会を設けとともに、考えたことを言葉や式グラフなどを活用して表す機会を位置づけた授業を進めるとともに、第3，4学年の小や分数の学習など、下学年における数の表し方や仕組みに関わる学習や「基準とする量」と「比較する量」に関係を確実に身に付けさせる必要がある。

◆ 《算数・活用》

○活用に関する問題は、筋道を立てて考えることに加えて、事象を数学的に解釈する問題など5問13設問が学習指導要領の目標及び内容に基づき出題された。

○指導に当たっては、児童の発達の段階に考慮しながら、問題を解決するために筋道を立てて考える機会を位置づけるとともに、考えたことを児童同士が話し合い、自分の考えを表現し、他者との考えと比較・検討する機会などを位置づけたりした学習を進める必要がある。

(中学校)

調査結果の概要を踏まえて、現段階では中学校において、以下のような取組が求められる。

◆ 《全体として》

○小学校と同様、各教科の設問や領域毎の下位の平均正答率や無解答の問題に着目し、各学校の現状を踏まえ、子どもの発達の段階や指導内容の系統性も踏まえた上で、当該学年の指導はもとより、基礎となる下学年の指導や学習が積み重なる上学年での指導を意図的・計画的に行うことが必要である。

○各学校においても、小学校と同様、各問題を分析・検証の上、その結果から読み取れる課題に焦点を当て、学習指導の改善や充実につながるよう指導の在り方を工夫する必要がある。

◆ 《国語・知識》

○知識に関する問題は、これまでと同様に、漢字を正しく読んだり書いたりする問題のほか、同音異義語を使い分けたり、漢字の楷書と行書との違いを書くなど9問32設問が学習指導要領の目標及び内容に基づき出題された。

○指導にあたっては、学習した漢字を各教科等の学習で意図的に使ったり、長期的なスパンで漢字の適切な活用の仕方の定着状況を振り返る機会を設定したりするなどして、学習した漢字を使って文や文章を書く能力を確実に身に付けさせる指導が必要である。

◆《国語・活用》

○活用に関する問題は、これまでと同様に、理由を書く問題や提示された形式に合わせて書く問題など3問9設問が学習指導要領の目標及び内容に基づき出題された。

○指導にあたっては、字数や用いる語句など、様々な条件に応じて話したり書いたりする力を高める学習や複数の情報を吟味し、必要に応じて取捨選択する力を高める学習を進める必要である。

◆《数学・知識》

○知識に関する問題は、これまでと同様に、文字を用いた四則計算のほか、移行措置の内容である代表値や資料の散らばりなど「資料の活用」領域に関わる問題など13問36設問が学習指導要領の目標及び内容に基づき出題された。

○指導にあたっては、小学校における学習内容「比例」、「反比例」などを確認し、繰り返して学習するとともに、いろいろな2量の変化について調べたり、関係性を考えたりする学習を位置づけ、比例、反比例の関係を確実に身につけさせる必要がある

◆《数学・活用》

○活用に関する問題は、示された事柄を根拠をもって説明する問題など5問15設問が学習指導要領の目標及び内容に基づき出題された。

○指導にあたっては、小学校段階から継続的に様々な資料に触れさせるとともに、必要な情報を選択し、整理的に考察することを位置づけた学習を進める必要がある

### 3 今後の予定

今後、以下のような取り組みを取り進める。

#### ○教育委員会

- ①各学校に対して、改善に向けた具体的な取り組みを展開するよう指導
- ②市民へのホームページ等による結果公表
- ③各学校の「学力・学習改善プラン」の策定について状況把握
- ④「学力・学習改善プラン」の教育委員会への提出
- ⑤「学力・学習改善プラン」について成果や課題を検証
- ⑥伊達市独自の学力テストの実施 基準日12月1日

#### ○学 校

- ①学校における分析・検証  
：自校の平均正答率は、北海道及び伊達市においてはどの位置にいるのか。
- ②保護者・地域への結果公表
- ③学校における改善方策を検討
- ④学校における「学力・学習改善プラン」の策定
- ⑤学校における「学力・学習改善プラン」の具体的取り組み・実践
- ⑥全国学力・学習状況調査の実施 4月
- ⑦伊達市学力テストの実施 12月